

### 【3 白石町 Shiroishi Town】



深浦地区から(塩田川越しに)

白石町では、町の南東側に広がる有明海の干潟をはじめ、佐賀平野内の高台や犬山岳の展望所など、町内各地から有明海越しに“北面の雲仙岳”が眺望できます。深浦地区の高台にある“桜の里展望台”からは、佐賀平野内を蛇行する塩田川越しに朝日を浴びる雲仙岳(↑)が眺められます。町内の中学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

武雄市との間にそびえる本町のシンボル・杵島山は、複数の山々から成りますが、その一つの犬山岳の山頂にはお城の形をした展望所(肥前犬山城展望所)があり、ここからは佐賀平野・有明海越しの雲仙岳のパノラマが楽しめます。平安時代初期(713年以降)に編纂された肥前国風土記によれば、杵島山では“歌垣”(古代の豊作祈願・収穫感謝の歌の行事が、後に若い男女が歌い合う行事に変化していったもの)が行われていたとされ、日本三大歌垣の一つに数えられています。その故事を記念した“歌垣公園”が犬山岳の中腹にあり、春には約7万本のツツジが花開き、町主催の短歌コンテストの優秀作品の歌碑が設置されています。遠く古代の時代から、空気がよく澄んだ日には、歌垣の参加者は雲仙岳を眺めながら歌を詠んでいたことでしょう。

本町内の広大な佐賀平野(白石平野)は、中世から繰り返されてきた干潟の干拓によって現在の規模まで拡張されたもので、沿岸部にある“ふくどみマイランド公園”の“ふれあい干拓館”では、その干拓の歴史を知ることができますが、公園内の地上18メートルの“干拓展望台”からは、白石平野より有明海、雲仙岳まで一望できます。本町では、この干拓地を活かした農業が盛んで、北海道に次いで全国2位を誇るタマネギや、イチゴ(さがほのか)、レンコンなど、多くの農産物が生産されており、町のキャラクターがそれを象徴しています(↓)。

白石平野の地先にある有明海の干潟は、全国一の規模を誇りますが、その干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を六角川や筑後川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、白石町内を旅してみませんか？

●白石町の観光情報はこちら↓

白石町商工観光係 <http://www.town.shiroishi.lg.jp/asobou.html>



本町沿岸部の干潟から



町のキャラクター